

令和7年度全国学力・学習状況調査 朝来市小学6年生と中学3年生の 生活習慣や学習環境等に関する 質問調査の分析結果



令和7年4月 実施

調査の概要

「全国学力・学習状況調査」は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立すること、また、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることが目的です。

調査の内容

児童生徒に対する生活習慣や学習環境等に関する質問

児童・生徒質問について

定着していると考えられる生活習慣や自己意識

小学校

- ☺ 「将来の夢や目標を持っている」と回答する児童の割合が多い。
- ☺ 「これまでの生活の中で、自然の中で遊ぶことや自然を観察することがあった」と回答する児童の割合が多い。
- ☺ 「地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがあった」と回答する児童の割合が多い。

中学校

- ☺ 「読書が好きである」と回答する生徒の割合が多い。
- ☺ 「これまでの生活の中で、自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがあった」と回答する生徒の割合が多い。
- ☺ 「地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがあった」と回答する生徒の割合が多い。

定着を維持するための取組

小学校

- ◎ キャリア教育を継続的・効果的に実施するとともに、各教科の学習が将来の夢や目標の実現にどのように役立つのかを授業の中で意識的に言及する。
- ◎ 体験活動後「何に気づいたか」「なぜそう感じたか」「次に何をしたいか」等を記録し、その内容を友達や家族と共有する。
- ◎ 総合的な学習の時間等を活用し、探究活動に地域の大人を「専門家」等として、協力・関わってもらう。

中学校

- ◎国語科だけではなく、各教科で読書活動を取り入れた展開を意図的に増やす。市立図書館との連携による出前貸し出し、テーマ別コーナーづくりを行う。
- ◎地域の公園や河川、里山を活用した自然体験学習を計画的に取り入れる。また校庭の植栽整備等、短時間でも自然と触れ合える機会を設ける。
- ◎学校と地域が日常的に関わりあえる場をさらに広げていく。ものづくり、農作業、伝統文化など、多様な学びに子どもたちが触れられる機会を増やす。

課題があると考えられる生活習慣や自己意識

小学校

- ☹ PC・タブレットなどの ICT 機器を使って、自己の考えと友達の考えを比較・共有し、見方・考え方を広げる学習活動が少ない。
- ☹ 「ICT 機器を使って、学校のプレゼンテーション(発表のスライド)を作成することができる」と思う児童の割合が低い。
- ☹ 「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集めて整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」と感じる児童の割合が低い。

中学校

- ☹ PC・タブレットなどの ICT 機器を使って、自己の考えと友達の考えを比較・共有し、見方・考え方を広げる学習活動が少ない。
- ☹ 「自分と違う意見について考えることは楽しい」と感じる生徒の割合が低い。
- ☹ 授業以外の一日あたりの学習時間が少ない生徒がやや多い。

課題を改善するための取組

小学校

- ◎ロイロノート等の ICT ツールを効果的に活用する学習を推進する。
- ◎ICT を活用して、資料作りから発表までを小グループで行い発表する学習を推進する。
- ◎課題設定の手順や情報の集め方を段階的に学ぶ時間を設ける。発表までの見通しを持たせ、ICT 機器を活用して、情報整理や発表資料の作成を支援する。

中学校

- ◎ロイロノートなどの ICT ツールを効果的に活用する学習を推進する。
- ◎異学年や多様な地域の方との交流を増やすことで、多様な価値観に触れる機会を増やす。授業改善や道徳の充実に関して「正解が一つでない課題」に取り組むことで「異なる意見から学びが深まる」という体験を積む。
- ◎生徒が自律的に学習に取り組めるよう、学習習慣を身につける。ICT 機器を定期的に持ち帰らせ、予習・復習をはじめ、個々に応じた課題に取り組むなど、課題の出し方を工夫する。

取組紹介

ICT を活用した学習活動の充実について

朝来市では令和7年度児童生徒の一人一台端末の更新事業に取り組み、夏休みから9月にかけて、市内全小・中学校の一人一台端末の更新を完了しました。

この取組により、「個別最適な学び」と「協働的な学び」に取り組みやすい環境づくりが進んでいます。取組の一部を紹介します。

○ロイロノートの活用

児童生徒も教員も全員で一枚の黒板のように画面を共有でき、学習課題や意見・考えの共有を効果的に行うことができます。画像や動画も活用できます。

○eライブラリの活用

授業中に、学習内容に応じた問題に取り組んだり、学習単元末の振り返りに活用したりしています。毎日の家庭学習にも活用でき、さかのぼって学びなおしたり、苦手分野を克服したりする課題を個別に解くことができます。児童生徒が学習状況に合わせて取り組むことが可能な内容となっています。

○英語アプリの活用(中学1～3年)

一人一人の英語のスピーキング力・リスニング力の向上を目指して英語アプリを導入しています。英語を話すこと、聞くことについて苦手意識を感じる生徒もあり、このアプリを活用することで、家庭で練習することもでき、周囲を気にすることなく、練習に取り組むことができます。

児童生徒が、様々な学び方を体験し、自分に合った学習方法を身につけていくことは、これからの社会を生きていくうえで、必要な力になります。紙媒体・デジタル双方を活用しながら、児童生徒は、主体的・対話的で深い学びを進めつつあります。

今後は、タブレット端末を持ち帰り、家庭学習の場面における活用の機会も増やしていきたいと考えています。

ご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

